

切削

材にあわせて数十種類の刃を付け替え、板を切削する。

ライトをあてて1枚ずつ肌荒れがないかチェック

切削音のわずかな変化から、厚みムラなどを見分けちゃう。

何十年もこの持場機械とは子供より長い付き合い

刃の角度、刃こぼれなどを常に確認します。

刃に爪をあてて、切木味を見る。

その光沢は、木の細胞一つひとつから放たれたものです。

こつした職人技のリレートで生み出されたツキ板



自然が作り上げた唯一無二のデザイン「木目」を身近にしてみたいツキ板技術

乾燥
状態を確認しながら乾燥時間や温度を微々調整する



貼付

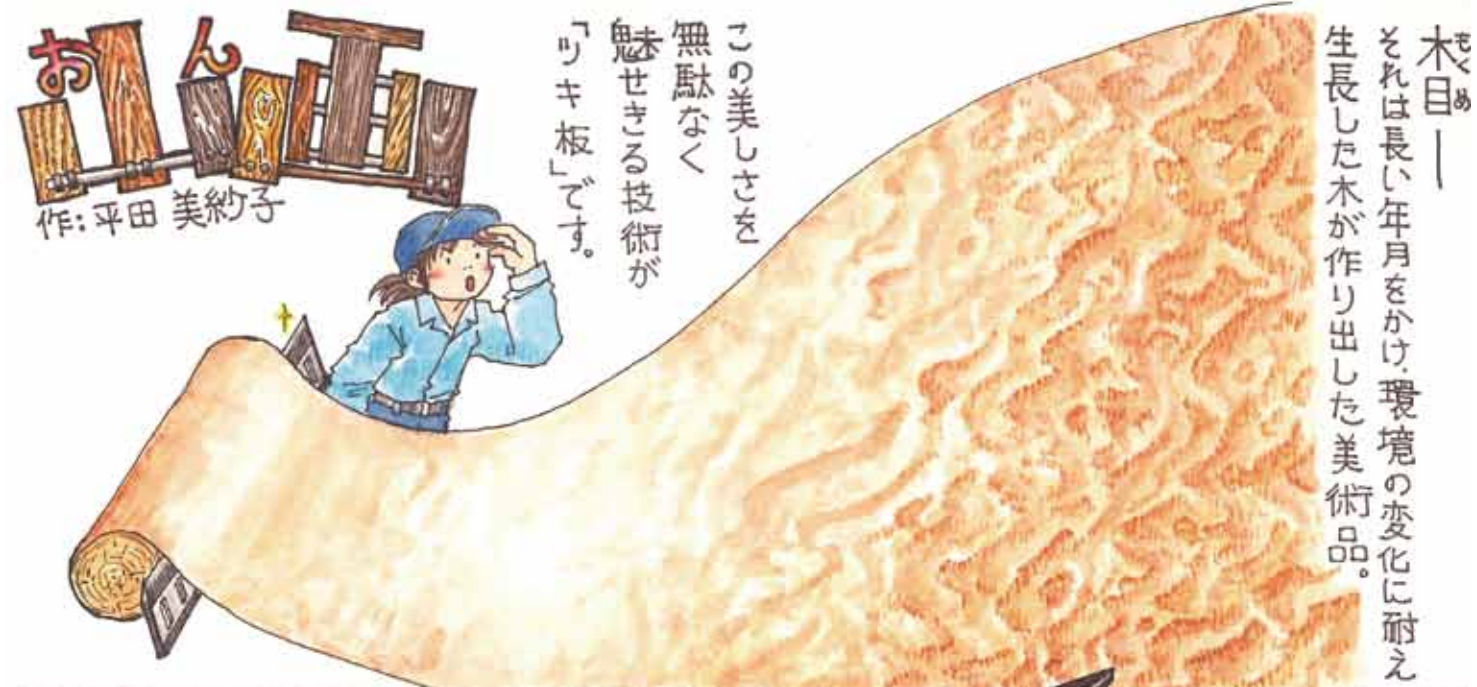
基材に並べて貼付していく。息を合わせてのスピード勝負

接着剤のわずかな水分でツキ板は伸縮。隙間を作らないのは熟練の技



検品 & 補修

髪の毛一本の隙間も見逃さず、木を貼って補修する



おん木目
作: 平田 美紗子

この美しさこそ、無駄なく魅せきる技術が「ツキ板」です。

木目—それは長い年月をかけ、環境の変化に耐え生長した木が作り出した美術品。



もし、1m³の材を官製ハガキにすると...

337,837枚分のハガキに！
1日10枚書いて約90年以上

現在の技術では、0.13mmの厚さまで削ぐことができます。



鏡で突いて削り出した板「ツキ板」

古くは古代エジプト時代に小物や家具に使用。日本では奈良時代に発達

「ツキ板」とは、木目の美しい材を限界まで薄く削いだもの。



玉切りして長さを決め

原木からフリック(ブロック)を切り出す

美しい木目が出せるよう木取りを行う

その後、フリックは煮沸してやわらかくする

失敗すると値段が半分に。なることもある為、熟練した技術が必要



選木

世界・国内各地を飛び回り原木を探す。樹種や産地の特徴、外見のみで美しい木目の原木を見極める

ツキ板の製造を支えるのは、いくつもの職人技。